

ごみ焼却施設

御坊広域清掃センターの流動床式ごみ焼却施設は、完全燃焼、公害防止、環境保全に万全を期しています。

ごみ焼却のしくみ

収集ごみの処理

清掃センターに運ばれたごみはごみ計量機で計量された後、燃えるごみはプラットホームからごみピットに投入されここで一時貯留されます。
可燃性粗大ごみは可燃性粗大ごみ処理施設で処理されます。燃えるごみはその後クレーンでよくかき混ぜられ、ごみ投入ホッパを通りごみ供給機の二軸スクルーで粗破砕された後、焼却炉へ送られます。

流動床式焼却炉

焼却炉の下部には一定量の砂が入っています。この砂の中にある散気ノズルから吹き込まれる空気によって砂が激しく流動し、流動床を形成します。
砂は、ごみの燃える熱によって常時高温に維持されており、この中にごみを投入すると、短時間のうちに乾燥・ガス化し燃焼を開始します。さらに、上部のフリーボード部で空気が吹き込まれ完全燃焼します。
その時の燃焼温度は、ダイオキシン発生防止のため850～950℃に保たれます。
これを流動床式焼却炉といいます。この方式はごみの分散、乾燥、ガス化が効率よく進行し、完全燃焼を可能にしています。

有害ガスの除去

ごみの焼却によって発生する排ガスは、高温なうえ、ダストや有害ガスを含んでいます。そこで、まずガス冷却室で噴射水によって冷却した後、空気予熱器を通して熱回収し、200℃程に冷却された排ガスが、ろ過式集じん器に送られます。
集じん器では排ガス中に噴霧される消石灰がダストとともにろ過層を形成し、塩化水素などの有害ガスが除去されます。その後煙突に送られ約50mの上空に排出されます。

燃えがら(不燃物)

焼却炉で燃え残った不燃物(ガレキ、金属類など)は、不燃物排出機によって砂と一緒に抜き出され、砂分級機で砂と不燃物とに分けられます。
砂は焼却炉に戻され、不燃物のうち鉄くずはリサイクルに、それ以外の物は埋め立て処分されます。

ダスト(飛灰)処理

ろ過式集じん器で取り除かれた飛灰は、重金属溶出防止剤と混合した後に無害化され埋め立て処分されます。

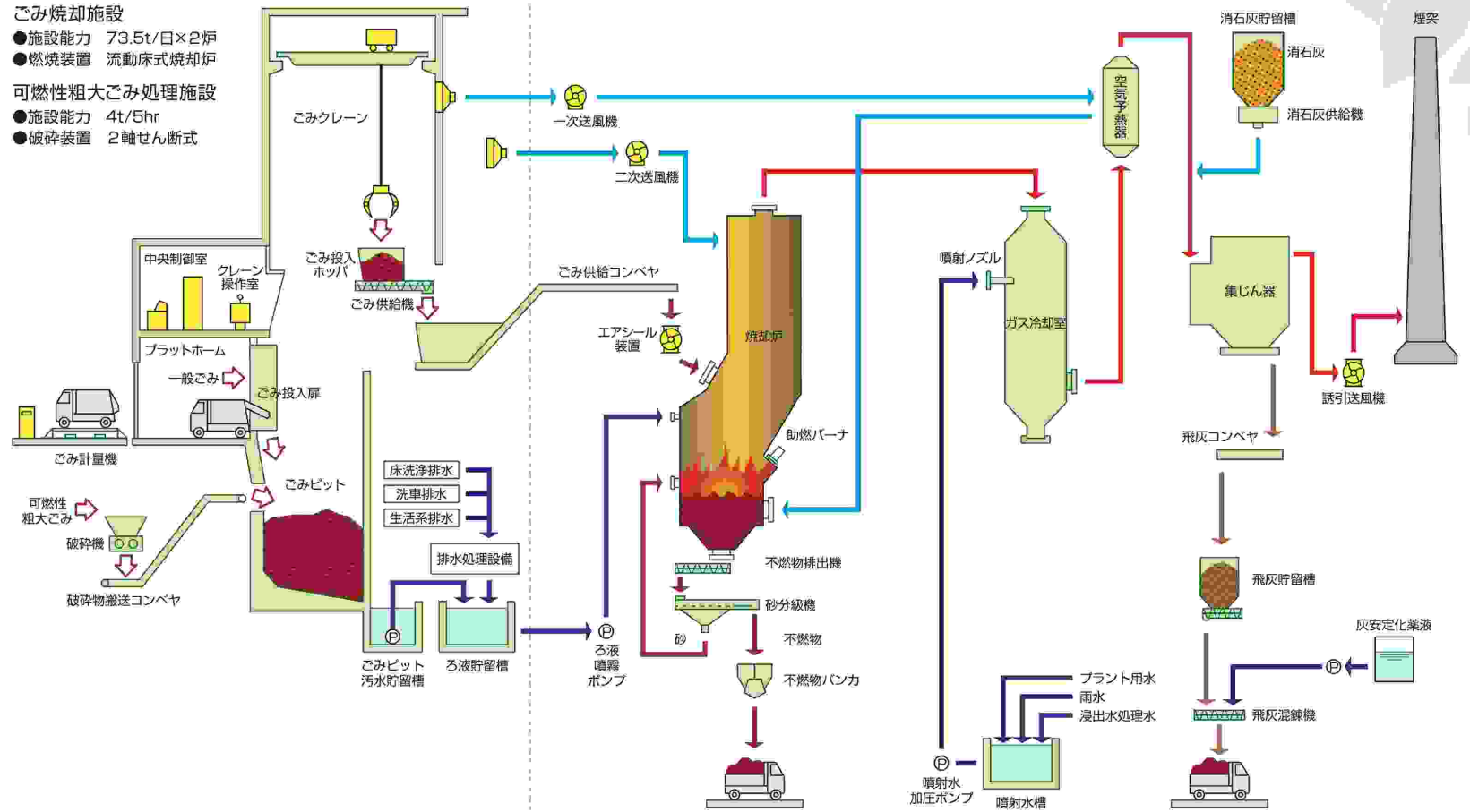
清掃センターフロー

ごみ焼却施設

- 施設能力 73.5t/日×2炉
- 燃焼装置 流動床式焼却炉

可燃性粗大ごみ処理施設

- 施設能力 4t/5hr
- 破砕装置 2軸せん断式



公害対策

臭気対策

施設外への臭気もれを防ぐため、ごみピット室の臭気は送風機で吸引し、燃焼用空気として焼却炉へ送り臭気も炉内で燃焼脱臭されます。

排水・汚水の再利用

ごみピットに溜まった污水や、施設内で発生する床・収集車洗浄排水や生活排水は、排水処理設備に集められたあと、焼却炉で焼却します。また、屋根などに降る雨も積極的に再利用されます。

騒音・振動の防止

騒音・振動源となる機器は、鉄筋コンクリートの室内に設置したり、防音・防振施工することにより、周辺地域への影響を防止しています。

